英語が母国語でない人たちを思いやることについて

イーヴ・エイブラハム
ドイツ、キルフセイオン

先日の西ヨーロッパでのプレ世界会議で、私は、通訳者としてたいへんな恐怖を感じていましたが、みんなの前での通訳を終えるや否や、アライのアテンションをうまく活用しました。スザンヌ、通訳者全員に英語のネイティブスピーカーをアライとしてつけてくれてありがとう！そしてアラン、私のためにいてくれてありがとう！ほかにも、私たち英語のネイティブスピーカーがRCのイベントの際に考えてみるとよさそうなことが２つほどあります：

１．　ワークショップで、俗語や難解な語彙をたくさん使った発言だったり、またはDVDの音声がゆがんで聞きにくかったりして、通訳者が黙っているようだと気づいたら、私たちは通訳者のそばに座って、もっと単純な英語に“翻訳する”という手があります。私自身、この方法を会議中一度使いました。　たぶん、センテンス毎にDVDテープを止めて、通訳するための時間がとれたらもっとよかったことでしょう。

２．　英語がうまく話せないからという理由で、その人たちをカウンセラーとして選ばないならば、彼らを抑圧することになり、彼らのカウンセリングという資源を奪うことになります。例えばサポートグループ等で、カウンセラーを選択できる機会があったとして、まったく英語が喋れない人に、通訳者の助けを借りて、カウンセラーをしてもらうことができます（通常、サポートグループは、通訳者がいるように組まれています）。

Being Thoughtful About Non-Native English Speakers
プレゼントタイム2005年10月号32 ページより
Eve Abraham
翻訳　丸谷イクコ、エマ・パーカー

この文章の著作権はラショナルアイランド社にあります（翻訳2007年。原文2005年）。
この翻訳はあくまで草稿として扱ってください。